

平成24年11月27日

水産庁

独立行政法人 水産総合研究センター

平成24年度日本海さば類・マアジ・マイワシ・ブリ長期漁況予報

—別表の水産関係機関が検討し独立行政法人水産総合研究センター
日本海区水産研究所がとりまとめた結果—

今後の見通し（平成24年11月～平成25年3月）のポイント

漁況（来遊量）

さば類（島根県～新潟県）

前年並み。

マアジ（島根県～新潟県）

前年を下回る。

マイワシ（島根県～新潟県）

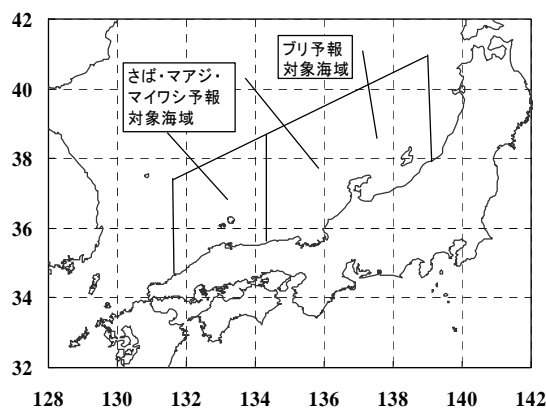
前年並み。

ブリ（兵庫県～新潟県）

0歳魚は前年並み。

1歳魚は前年並み。

2歳魚以上は前年を下回る。



※「前年」は平成23年11月～平成24年3月を示す。

問い合わせ先

水産庁 増殖推進部 漁場資源課

担当：沿岸資源班 新村、中津

電話：03-3502-8111(内線 6800)、直通電話：03-6744-2377、ファックス：03-3592-0759

当資料のホームページ掲載先 URL

<http://www.jfa.maff.go.jp/j/press/>

（予報の詳細についてのお問い合わせ先）

独立行政法人 水産総合研究センター 日本海区水産研究所 業務推進部

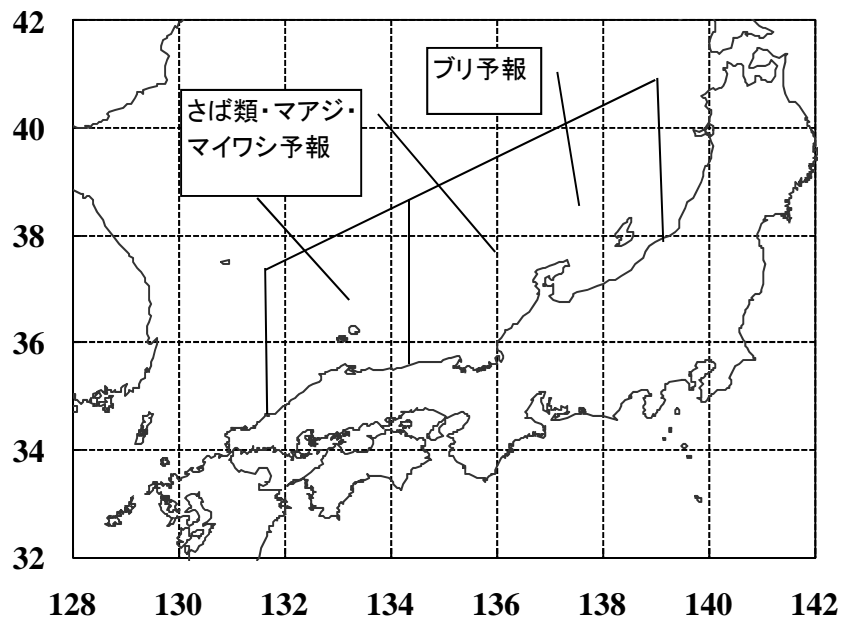
担当：関根、中島

電話：025-228-0451、ファックス：025-224-0950

当資料のホームページ掲載先 URL

<http://abchan.job.affrc.go.jp/>

<http://jsnfri.fra.affrc.go.jp/>



予報対象海域

日本海さば類・マアジ・マイワシ・ブリ長期漁況予報

今後の見通し（2012年11月～2013年3月）

1. さば類（島根県～新潟県）
0歳魚（2012年級）と1歳魚（2011年級）を主体に来遊量は前年並み。
2. マアジ（島根県～新潟県）
0歳魚（2012年級）と1歳魚（2011年級）を主体とした漁獲がみられ、来遊量は前年を下回る。
3. マイワシ（島根県～新潟県）
0歳魚（2012年級）を主体に前年並み。
4. ブリ（兵庫県～新潟県）
各年級の来遊は以下のとおり予想される。
0歳魚（2012年級）：前年並み。
1歳魚（2011年級）：前年並み。
2歳魚以上（2010年およびそれ以前の年級）：前年を下回る。

※「前年」は2011年11月～2012年3月を示す。

漁況の経過（2012年1月～9月）および今後の見通しについての説明

1. さば類（図1、図2）

●2012年1月～9月の経過

日本海で漁獲されるさば類は、東シナ海と日本海の間を回遊する対馬暖流系資源の一部で、その動向は東シナ海域と密接に関わっている。日本海主要港（島根県～新潟県）におけるさば類の漁獲量は2008年と2009年に増加し、2010年に減少した後2011年に再び増加した。2012年1月～9月における漁獲量は17,000トンで、前年同期（14,000トン）および過去5年平均（12,000トン）を上回った。

府県別では、全体に占める割合が大きい鳥取県および島根県（まき網）の漁獲量は1月に好調で前年および過去5年平均を大きく上回ったが、2月以降は前年並みで推移し

た。中部以北海域におけるまき網（主体は石川県と新潟県）の漁獲量は前年を下回り、兵庫県以北の定置網の漁獲量は5月までは好調であったが、6月以降前年並みから前年を下回る水準で推移した。

●資源状態と年級の豊度

対馬暖流系マサバ資源の年級毎の豊度について、2010年級は2009年級より高く、2011年級は2010年級より低いとみられる。西海区水産研究所「平成24年度第1回対馬暖流系アジ・サバ・イワシ長期漁海況予報」によると、2012年級は、2011年級程度と考えられている。

●今後の見通しについて

例年、日本海の漁獲量は西部海域のまき網の占める割合が大きく、11月～3月期には0歳と1歳が漁獲の主体となる。0歳魚（2012年級）の豊度は前年並み、1歳魚（2011年級）は前年を下回り、2歳魚（2010年級）は前年を上回ると考えられることから、全体の来遊量は前年並みと考えられる。

●海況について

「平成24年度第3回日本海海況予報」（日本海区水産研究所）によれば、2012年10月～12月、対馬暖流域の表面水温は「高め」で経過すると予報されており、漁況に与える影響は少ないと思われる。

2. マアジ（図3～図5）

●2012年1月～9月の経過

2001年～2010年における島根県～新潟県の主要港の水揚げ量は37,400～67,700トンで、2011年の漁獲量は38,500トンと前年並みであった。2012年1月～9月の漁獲量は25,000トンで、前年同期（24,000トン）をやや上回ったが、過去5年（2007年～2011年）平均（32,800トン）を下回った。月別では1月～3月に前年を上回ったが、6月以降では前年および2010年を大きく下回り低調に推移した。

●資源状態と年級の豊度

日本海で漁獲されるマアジは対馬暖流系資源の一部であり、その動向は対馬暖流系群の資源状態と密接に関わっている。対馬暖流系群における 2011 年級（1 歳魚）の豊度は 2010 年級（2 歳魚）を上回ると考えられる。また、2012 年級の豊度は稚仔魚および幼稚魚分布調査などから 2011 年級並みか下回ると考えられる（西海区水産研究所「平成 24 年度第 1 回対馬暖流系マアジ・さば類・いわし類長期漁海況予報」より）。

●今後の見通しについて

日本海区水産研究所、鳥取県および島根県が共同で毎年 5 月～7 月に日本海西部海域でマアジの新規加入量調査を行っている。この調査の中層トロールによるマアジ幼魚の採集数と水温分布から求めたマアジの加入量指数（来遊量の多さ）は、来遊量の多かった 2003 年を 1 とすると、2012 年は 0.42 で、前年（0.21）を上回ったが、2008 年～2010 年に比べて低い水準に止まっている。推定されたマアジ幼魚の加入量指数は、境港におけるまき網 1 ヶ統あたりの 0 歳魚の漁獲尾数と対応関係が見られるので、日本海西部海域における 0 歳の来遊量は少ないと考えられる。

11 月～3 月における日本海の漁獲量は、例年、0 歳魚と 1 歳魚が主体で、2 歳魚以上も漁獲される。0 歳魚は前年並み、1 歳魚は前年を下回り、全体の来遊量は前年を下回ると考えられる。

3. マイワシ（図 6、図 7）

●2012 年 1 月～9 月の経過

日本海におけるマイワシの漁獲量は増加傾向を示していたが、2011 年 4 月以降急激に漁獲量が増大し、2011 年の漁獲量は 30,000 トンを越え 2000 年以降の最多となった。この漁獲量の急増は 2010 年級によるものであり、主に隠岐諸島周辺と能登半島周辺に来遊した。2011 年 7 月以降は 2011 年級が漁獲の主体となったが、2012 年 3 月～5 月には再び 2010 年級を主体とする漁獲がみられた。2012 年 8 月以降は 2012 年級が漁獲の

主体となって漁獲されている。

●資源状態と年級の豊度

2010年級は近年では最も豊度の高い年級である。2011年級は2010年級を下回り、2012年級の評価は難しいが、漁況の推移から2011年級並みと考えられる。

●今後の見通しについて

例年、11月～3月期には0歳が漁獲の主体となる。0歳魚（2012年級）の豊度は前年並みと考えられることから、来遊量は前年並みと考えられる。

4. ブリ（図8～図10）

●2012年1月～9月の経過

2000年～2010年における兵庫県～新潟県の主要定置網の漁獲量は4,900～8,600トンで横ばい傾向であったが、2011年は12,100トンとなり、前年を大きく上回った。2012年1月～9月における漁獲量は3,500トンで、前年同期（8,200トン）および過去5年（2007年～2011年）平均（5,900トン）を大きく下回った。月別経過では、すべての月で好調な前年を大きく下回っただけでなく、殆どの月で2010年よりも下回り、低調に推移した。

年齢別の漁況経過をみると、兵庫県～新潟県における0歳魚、1歳魚および2歳魚以上の漁況はともに前年を下回り低調に推移した。1月～9月の0歳魚の漁獲量は1,100トンで、同期間における前年（1,500トン）および過去5年平均（1,600トン）を下回った。1歳魚（2011年級）の漁獲量は1,500トンで、同期間における前年（3,700トン）および過去5年平均（2,500トン）を下回った。2歳魚以上（2010年級および2009年以前の年級）の漁獲量は900トンで、同期間における前年2,900トンおよび過去5年平均（1,800トン）を大きく下回った。

●資源状態と年級の豊度および今後の見通しについて

0歳魚である2012年級の6月～9月における漁況は低調に推移しているが、例年では10月以降の漁獲量が大きく上向くことから、0歳魚の来遊量は前年並みと期待される。

1歳魚である2011年級は、0歳時の漁獲尾数および資源量が高水準（「H24年度ブリの資源評価」より）であるが、2012年1月～9月の漁況経過が低調であることから、来遊量は前年並みと考えられる。

2歳魚である2010年級および3歳魚である2009年級は、0歳時における資源水準が高いが、0歳と1歳時に多獲された上、2012年1月～9月の漁獲量は低調に推移していることから、2歳魚以上(2010年級以上)の来遊量は好調な前年を下回ると判断される。

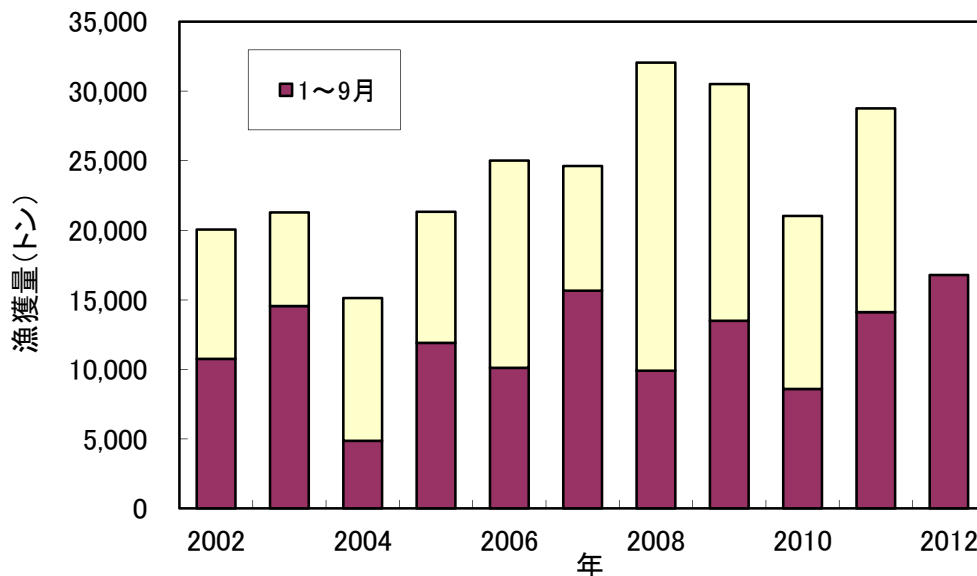


図1 さば類の漁獲量の経年変化

(年計、■は1月～9月まで；島根県～新潟県、2012年は9月まで)

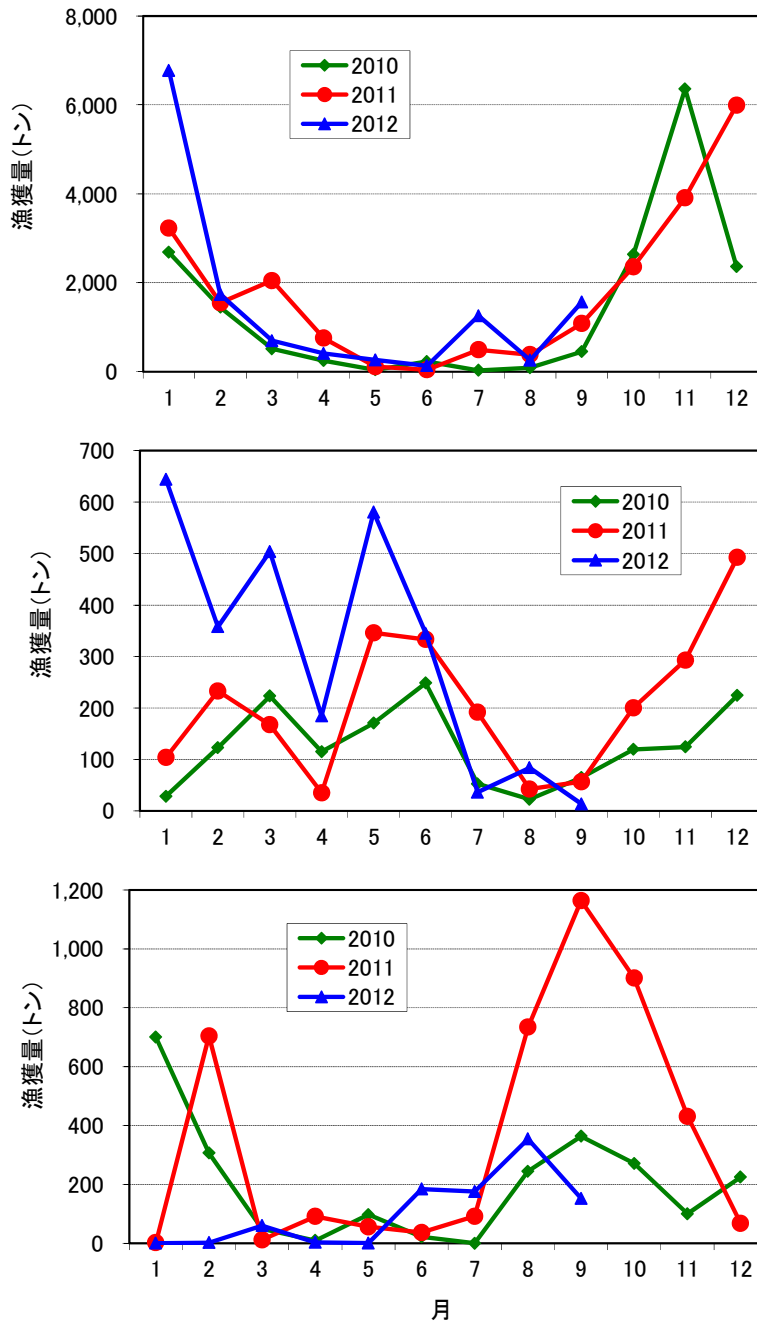


図2 さば類の月別漁獲量の推移 (2010年-2012年、2012年は9月まで)

上: 鳥根県～鳥取県 (まき網)

中: 兵庫県～新潟県 (定置網)

下: 兵庫県～新潟県 (まき網: 定置網以外を集計)

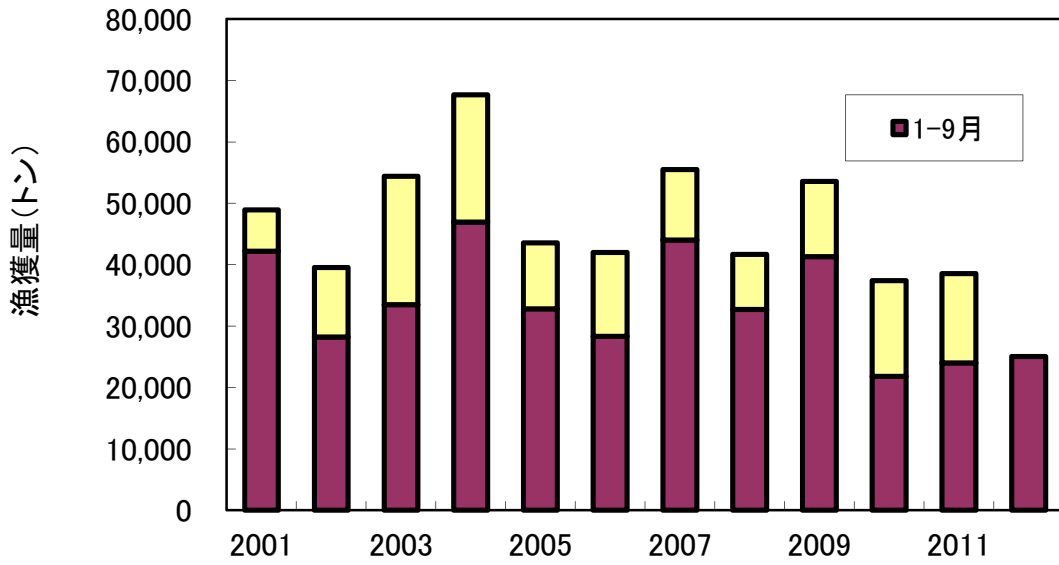


図3 マアジの漁獲量の経年変化

(年計、■は1月～9月まで；島根県～新潟県、2012年は9月まで)

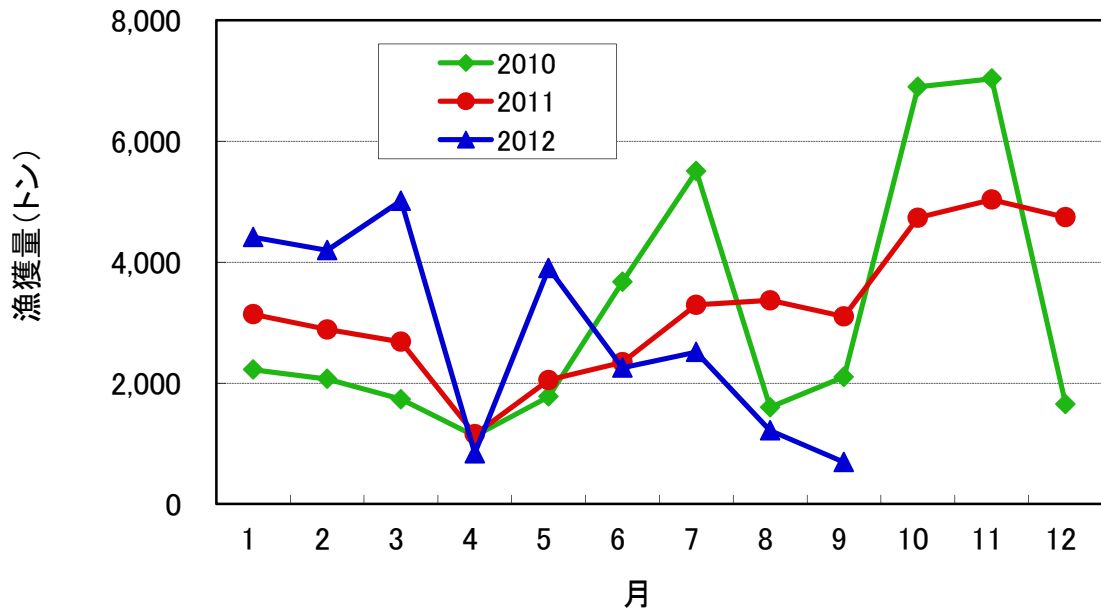


図4 マアジの月別漁獲量の推移 (2010年-2012年、2012年は9月まで)

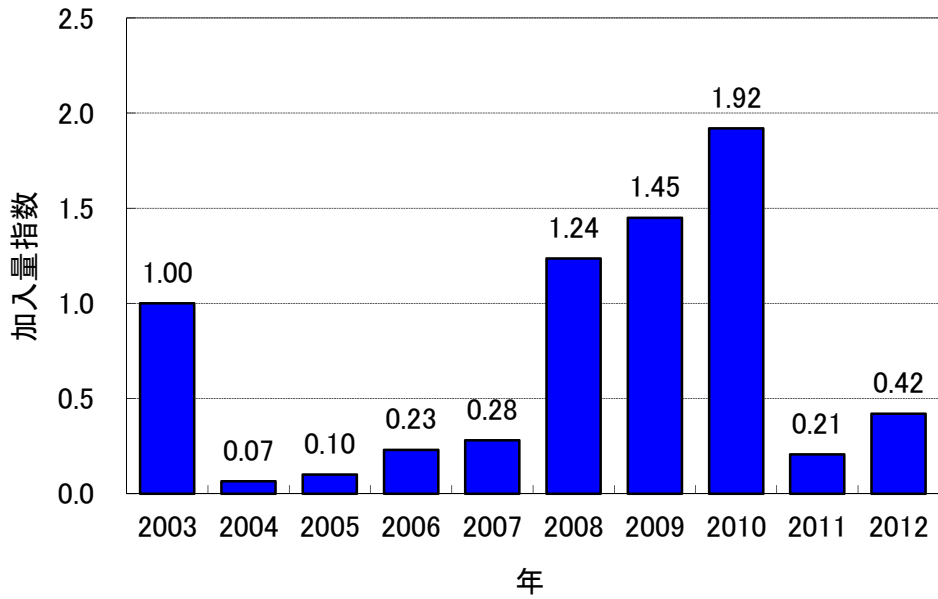


図5 トロール調査によるマアジ幼魚の採集数と水温分布から算出されたマアジ加入量指数の経年変化（2003年を1とした）

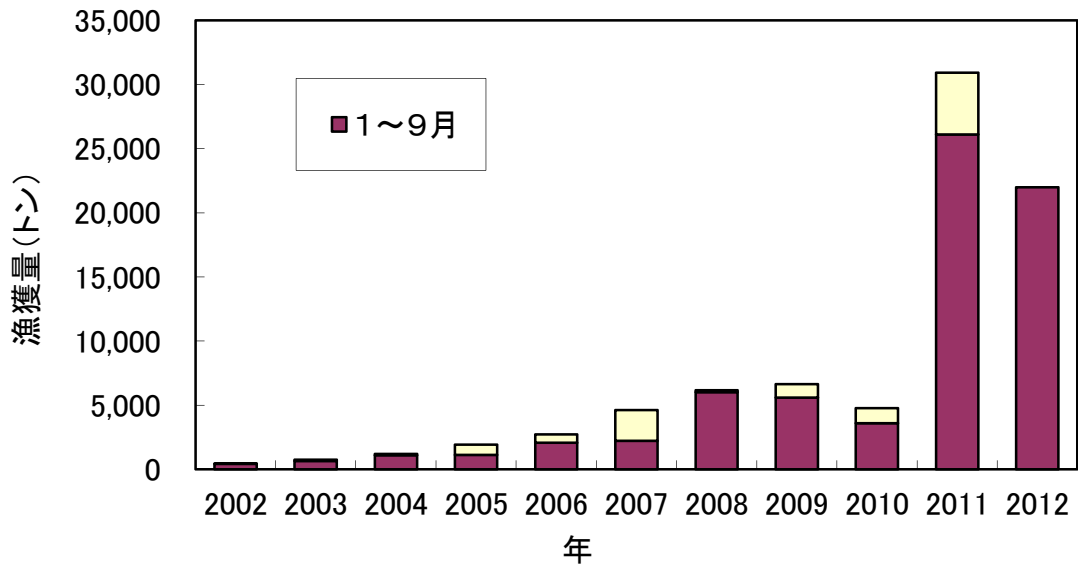


図6 マイワシの漁獲量の経年変化

(年計、■は1月～9月まで；島根県～新潟県、2012年は9月まで)

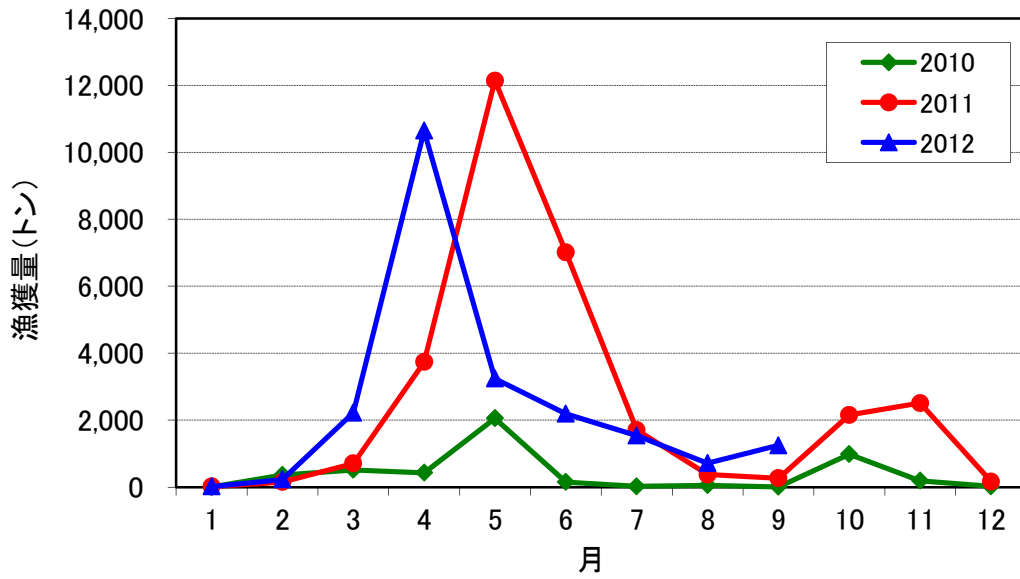


図7 マイワシの月別漁獲量の推移 (2010年-2012年、2012年は9月まで)

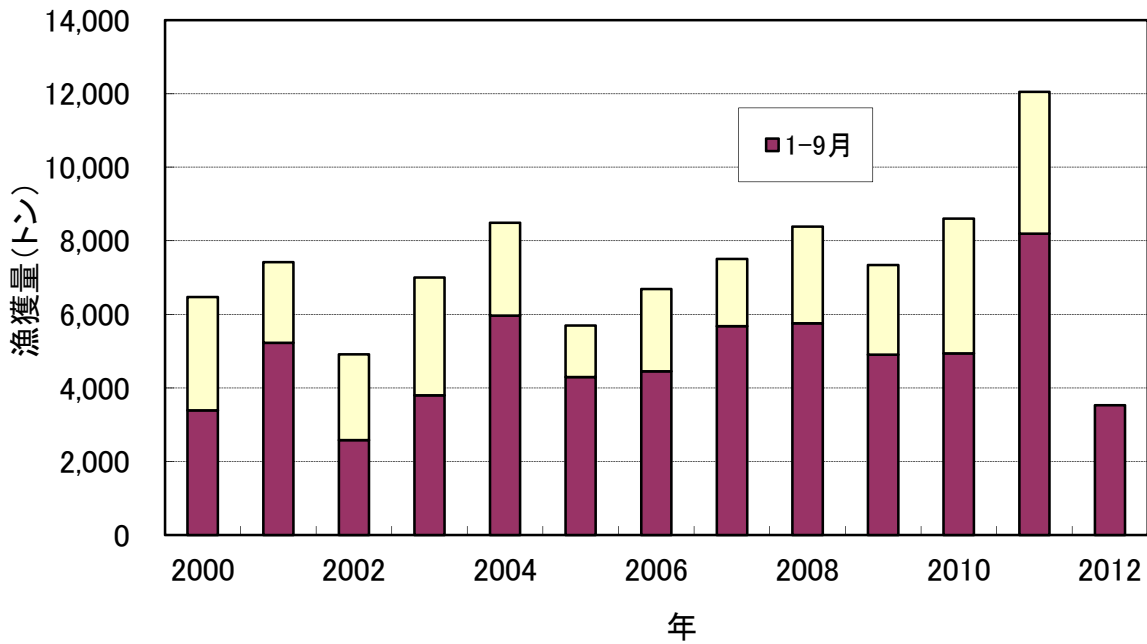


図8 兵庫県～新潟県におけるブリの特定定置網漁獲量経年変化

(年計、■は1月～9月まで；2012年は9月まで)

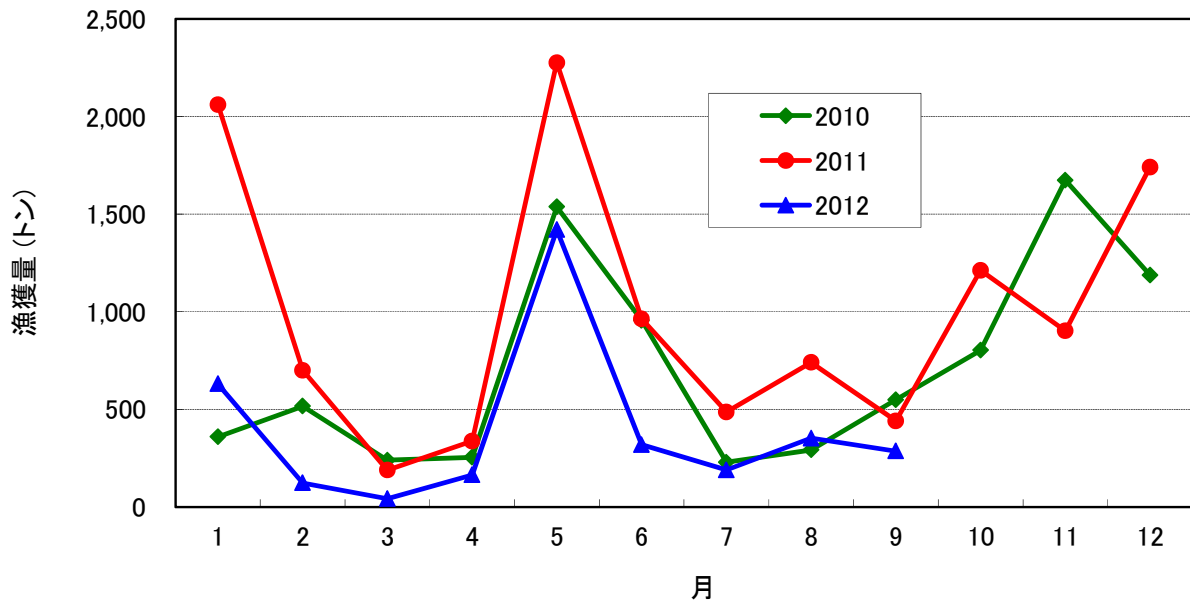


図9 兵庫県～新潟県におけるブリの特定定置網月別漁獲量 (2010年-2012年、2012年は9月まで)

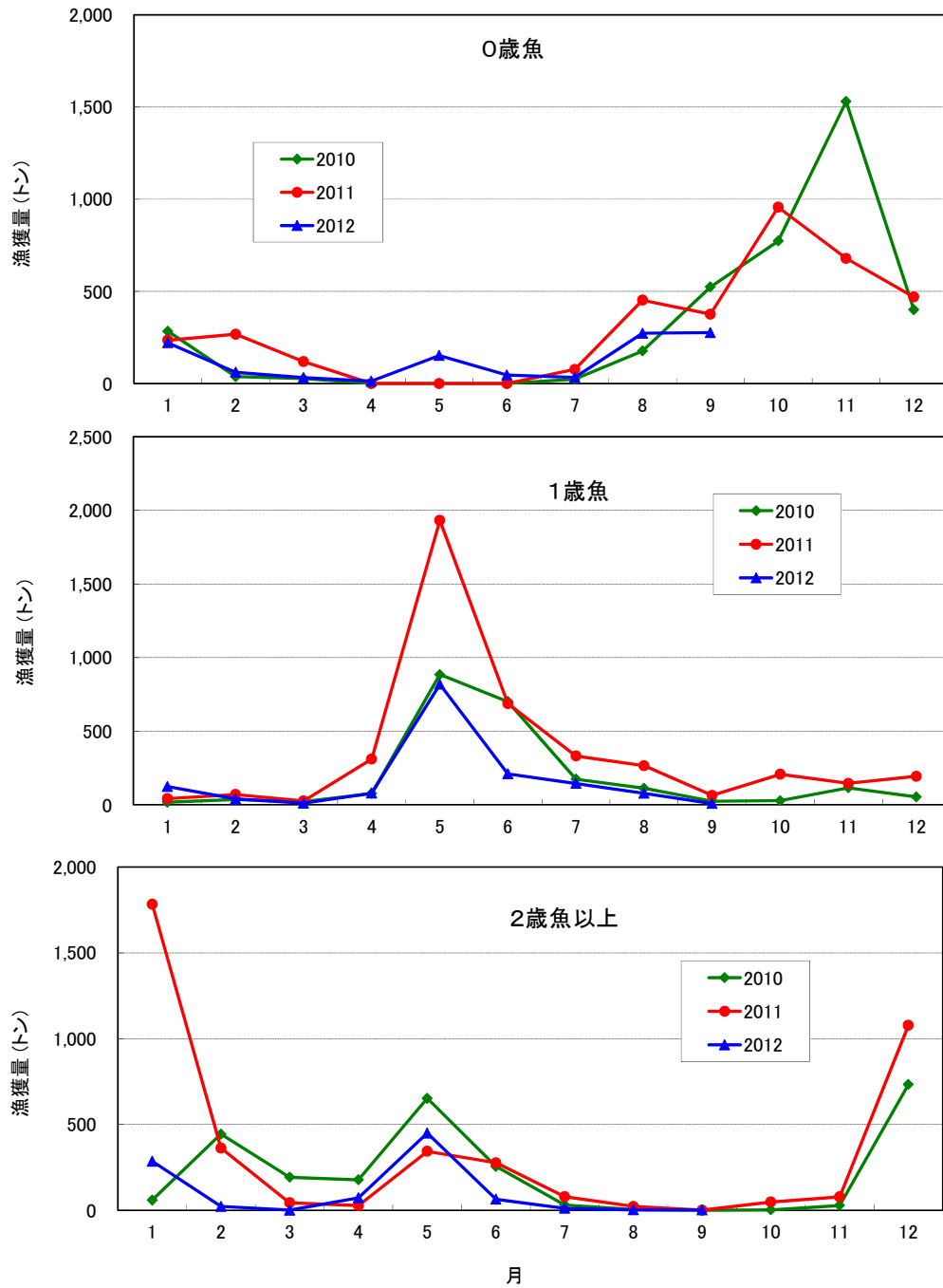


図 10 兵庫県～新潟県におけるブリの特定定置網の年齢別月別漁獲量
(2010年-2012年、2012年は9月まで)

参 画 機 関

地方独立行政法人 青森県産業技術センター 水産総合研究所	京都府農林水産技術センター 海洋センター
秋田県農林水産技術センター 水産振興センター	兵庫県立農林水産技術総合センター 但馬水産技術センター
山形県水産試験場	鳥取県水産試験場
新潟県水産海洋研究所	島根県水産技術センター
富山県農林水産総合技術センター 水産研究所	社団法人 漁業情報サービスセンター
石川県水産総合センター	独立行政法人 水産総合研究センター 西海区水産研究所
福井県水産試験場	(取りまとめ機関) 独立行政法人 水産総合研究センター 日本海区水産研究所